

## 新人発表 掲載原稿作成の手引き

- 1) 掲載原稿は以下の要領で作成し、A4サイズ用紙に各自プリントアウトし提出してください。
- 2) ワープロ・パソコンで作成してください。用紙設定は以下を参考におこなってください。  
編集作業の都合上、上下左右の余白は必ず設定してください。

ワードソフトの場合

- ・「ファイル」→「ページ設定」を開く
- ・「文字数と行数」タグ「文字方向」の横書きを選択し、「段数」を2とする。
- ・「文字数と行数の指定」は「標準の文字数と行数」を選択する。
- ・次に、「余白」タグで余白を右・左・上をそれぞれ20mmに、下は30mmに設定する
- ・最後に「OK」を押すと設定が完了します。

- 3) タイトルは明朝12ポイント強調文字とし、左揃えとなるようにしてください。
  - 4) 副題がある場合は明朝10ポイントとし、左揃えとせず、中央揃えとなるようにしてください。
  - 5) タイトル字数が多い場合はバランスを考慮しながら改行してください。
  - 6) 9ポイントで1行空行をはさみ、施設名と氏名を入れてください。  
施設名と氏名は明朝9ポイントとしてください。
  - 7) 施設名の後、2字空け氏名を入れてください。なお、施設名・氏名は右揃えとしてください。
  - 8) 9ポイントで1行空行をはさみ、本文を入れてください。  
本文は明朝9ポイントとしてください。
  - 9) 本文は原則的に、【はじめに】・【対象】・【方法】・【結果】・【考察】に分けて下さい。  
症例研究の場合、必要に応じ【症例紹介】・【経過】等の項目を追加してください。
  - 10) 本文は文字のみとします。画像等をレイアウトしないでください。
  - 11) 本文は横25文字×51行を目安に1,200字程度にまとめてください。
  - 12) 原稿提出に際しては、厚紙などで原稿の保護に努めて下さい。
- 基本的には「高知県理学療法 21号」掲載分と同様のレイアウトです。そちらもご確認の上、作成してください。

<掲載原稿作成に関するお問い合わせ>

〒780-0056 高知市北本町 1-2-6  
社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院  
理学療法室 塚本 琢也  
TEL 088-822-5231 (代)

演題名(明朝12pt)左揃え  
副題がある場合は明朝10pt中央揃え

施設名〇〇2字空け氏名 9pt右揃え

本 文

明朝 9pt

## 第26回 高知県理学療法士協会新人発表学術集会(平成27年度)

### ～演題発表プログラム～

<b>セッション 1 (神経)</b>			<b>座長</b>	<b>高知赤十字病院 徳弘 健</b>
S1-1	門脇 一弘	カドワキ カズヒロ	近森病院	慢性炎症性脱髄性多発神経炎患者の歩行における転倒リスクの軽減に向けた関わり
S1-2	梶野 舞	カジノ マイ	白菊園病院	左頭頂葉皮質下出血により右片麻痺を呈した症例～歩行に着目して～
S1-3	吉良 崇	キラ タカシ	白菊園病院	サルコペニアを呈した脳卒中片麻痺患者の歩行獲得をめざして～栄養とリハ効果についての一考察～
S1-4	高橋 夏姫	タカハシ ナツキ	南国中央病院	視床出血により重度感覚障害を呈した症例～歩行獲得に向けて～
S1-5	西森 健允	ニシモリ タケマサ	南国中央病院	脳梗塞を呈した症例～右立脚期に着目して～
S1-6	松田 俊哉	マツダ シュンヤ	愛宕病院	歩行立脚期に膝屈曲パターンを呈し、重心移動が困難であった脳梗塞不全麻痺患者～身体認識に着目した歩容の改善を目指して～
S1-7	近森 伸剛	チカモリ ノブタケ	愛宕病院	左麻痺側下肢への荷重が困難であった症例
S1-8	金子 真梧	カネコ シンゴ	近森リハビリテーション病院	足底挿板導入により歩行能力向上を認めた小脳出血の一症例
S1-9	武田 圭司	タケダ ケイジ	愛宕病院	「膝から下がないみたい…」と右下肢を認識した左脳損傷患者～身体保持感による歩行の変化～
<b>セッション 2 (神経)</b>			<b>座長</b>	<b>南国中央病院 金岡 寛起</b>
S2-1	刈谷 龍仁	カリヤ タツヨシ	近森リハビリテーション病院	運動学習に着目した脳梗塞患者に対する歩行獲得へのアプローチ
S2-2	金城 沙耶	キンジョウ サヤ	近森リハビリテーション病院	膝痛に対し部分免荷により歩行訓練の導入が可能となった左片麻痺患者
S2-3	坂本 郷	サカモト アキラ	近森病院	起立動作が不安定な脊髄小脳変性症患者に対し視覚的フィードバックを用いた訓練を実施した一例
S2-4	池澤 孝規	イケザワ タカノリ	もみのき病院	脳幹梗塞に対し、早期から歩行訓練を行った症例
S2-5	壽野 公海	ジュノ タカミ	近森病院	問題点の再考により歩行能力が向上した代謝性疾患の一症例
S2-6	吉本 慎太郎	ヨシモト シンタロウ	竹本病院	独歩可能な脳梗塞片麻痺患者に対してのさらなる課題～生活場面に応じた実用的な歩行の獲得に向けて～
S2-7	松岡 隆成	マツオカ リュウセイ	須崎くろしお病院	pusher現象を呈した右片麻痺患者に対するアプローチ～段階的難易度設定による立位練習～
S2-8	小川 友希	オガワ ユキ	近森病院	ビタミンB1欠乏性ニューロパチー患者の歩容改善に向けた体幹・股関節周囲の筋出力向上に対するアプローチ
<b>セッション 3 (神経)</b>			<b>座長</b>	<b>近森リハビリテーション病院 村上 野志夫</b>
S3-1	近澤 伸輔	チカザワ シンスケ	内田脳神経外科	ボツリヌス療法と姿勢設定に取り組んだ症例～座位姿勢での足底接地に着目して～
S3-2	有田 幸平	アリタ コウヘイ	竹本病院	脳血管障害を再発した症例の座位保持能力向上を目指した実践～体幹機能に着目したアプローチ～
S3-3	新居 嘉希	ニイ ヨシキ	リハビリテーション病院すこやかな社	重度感覚障害を呈した片麻痺患者を経験して～坐位修正能力獲得によるADL変化～
S3-4	山本 英貴	ヤマモト ヒデタカ	愛宕病院	垂直認知を獲得したが正中位座位保持困難であった左半側空間無視患者
S3-5	秋森 美憂	アキモリ ミユウ	いずみの病院	右被殻出血を呈した片麻痺患者への座位・立位保持獲得に向けてのアプローチ
S3-6	西岡 真由	ニシオカ マユ	いずみの病院	脳挫傷により外傷性くも膜下出血を呈した症例～端座位保持能力の向上を目指して～
S3-7	橋本 圭佑	ハシモト ケイスケ	野市中央病院	脳梗塞右片麻痺を呈した症例(体幹への気づき)
S3-8	岡本 辰輔	オカモト シンスケ	細木病院	高位頸髄損傷患者に対する車椅子座位姿勢の改善に向けたアプローチ
<b>セッション 4 (運動器)</b>			<b>座長</b>	<b>高知大学医学部附属病院 山本 貴裕</b>
S4-1	森岡 将也	モリオカ マサヤ	田中整形外科病院	変形性膝関節症に対しTKAを施行した症例～足部への早期アプローチが歩容に与える影響～
S4-2	小原 史也	オハラ フミヤ	JA高知病院	右TKAを施行した症例～歩容改善に着目して～
S4-3	細木 悠至	ホソギ ユウジ	細木病院	膝関節機能が歩行に及ぼす影響～右TKAを経験して～
S4-4	山崎 宣侑	ヤマサキ ノブユキ	細木病院	姿勢の矯正が歩行にどのように影響したか～パーキンソンズを呈したTKA術後症例を経験して～
S4-5	前田 佳苗	マエダ カナ	いずみの病院	長期療養生活を送る変形性膝関節症患者の1症例～膝機能に着目して～
S4-6	堀川 克貴	ホリカワ カツタカ	南国中央病院	TKA術後症例を通して～階段昇降獲得を目標に～
S4-7	沖野 由奈	オキノ ユイナ	いずみの病院	疼痛と痺れで難渋した、脛骨高原骨折患者に対するアプローチ
S4-8	大平 拓巳	オオヒラ タクミ	近森病院	幼少期に右股関節を固定された症例の左TKA施行後の起立動作獲得に向けた取り組み
S4-9	西尾 佳祐	ニシオ ケイスケ	南国中央病院	体重過多の若年変形性膝関節症症例～意欲向上に着目して～

セクション 5 (運動器)

座長 細木病院 山本 純也

S5-1	下川 葵	シモカワ アオイ	愛宕病院	人工骨頭置換術後、「不安」「筋緊張亢進」「痛み」の悪循環に陥った症例
S5-2	浜田 和幸	ハマダ カズユキ	愛宕病院	両側THAを施行している症例の異常歩行に対するアプローチ～トレンデレンブルグ消失までの軌跡
S5-3	浜口 椋	ハマグチ リョウ	近森オルソリハビリテーション病院	両側末期股関節OAに対し右THAを施行した症例
S5-4	廣瀬 晋也	ヒロセ シンヤ	フレッククリニック	右変形性股関節症に対してTHAを施行した一症例～立位・歩行の姿勢に着目して～
S5-5	秋山 遥	アキヤマ ハルカ	近森病院	両側性変形性股関節症に対し右THAを施行しその後左THAを控えている症例を経験して
S5-6	津川 瑞稀	ツガワ ミズキ	愛宕病院	歩行時の体幹動揺に改善が得られた大腿骨頭壊死後THA施行患者に対するアプローチ～筋の収縮パターンに着目して～
S5-7	澤田 麻菜	サワダ マナ	清和病院	右大腿骨頭部骨折により歩行困難となった症例を経験して
S5-8	森田 晃央	モリタ アキヒサ	近森リハビリテーション病院	保存療法となった、大腿骨転子部骨折患者の部分荷重期からの歩行への介入

セクション 6 (基礎・内部障害・物理療法)

座長 高知医療センター 横島 和宏

S6-1	青山 涼樹	アオヤマ リョウキ	島津病院	透析患者のQOLと筋力についての比較
S6-2	南 朋宏	ミナミ トモヒロ	島津病院	高齢透析患者の～等尺性膝伸筋力、Timed Up and Go テスト、Short Physical Performance Battery～との関連性
S6-3	竹平 径代	タケヒラ ミチヨ	田野病院	終末期における理学療法の介入～最期に妻に逢いたい～
S6-4	門脇 千晶	カドワキ テアキ	近森リハビリテーション病院	離床拒否により運動量の確保に難渋した高齢脳梗塞患者を担当して
S6-5	横山 菜那子	ヨコヤマ ナナコ	近森病院	労作性狭心症患者に対する歩行速度に着目した術前からの運動指導
S6-6	刈谷 祐斗	カリヤ ユウト	近森病院	ADL能力の低下が予測される要因を持つ急性胆管炎患者に対する関わり
S6-7	森岡 昂平	モリオカ コウヘイ	近森病院	せん妄や認知機能低下により機能訓練に難渋した心不全患者に対するアプローチ
S6-8	大野 瑞穂	オオノ ミズホ	いずみの病院	尿路感染後の廃用症候群を呈した症例～歩行の獲得を目指して～

セクション 7 (神経)

座長 近森病院 岩崎 史明

S7-1	島崎 健輔	シマサキ ケンスケ	高知脳神経外科病院	左皮質下出血に重度認知症を呈した症例～ADL能力の向上を目指して～
S7-2	山崎 洋平	ヤマサキ ヨウヘイ	リハビリテーション病院すこやかな社	左片麻痺を呈し、安全な排泄動作の獲得を目指した症例
S7-3	豊永 桃嘉	トヨナガ ハルカ	くぼかわ病院	非麻痺側下肢の機能低下を有した超高齢CVA患者を担当して～移乗動作獲得に向けての取り組み～
S7-4	内田 拓	ウチダ タク	高知脳神経外科病院	視床出血患者の動作能力低下への取り組み
S7-5	西村 美湖	ニシムラ ミコ	近森リハビリテーション病院	重度の両膝OAを有した左片麻痺患者のトイレ動作介助量軽減に向けたアプローチ
S7-6	植野 泰樹	ウエノ タイキ	愛宕病院	レビー小体型認知症患者のすくみ足による移乗時の転倒リスク軽減を目指したアプローチ
S7-7	中平 円香	ナカヒラ マドカ	須崎くろしお病院	脳梗塞により右片麻痺を呈した症例～トイレ動作自立を目指して～
S7-8	森沢 優哉	モリサワ ユウヤ	いずみの病院	褥瘡リスクの高い頸損患者を経験して～ポジショニングからみえてきたもの～

セクション 8 (神経)

座長 愛宕病院 長田 祐輔

S8-1	川上 幸也	カワカミ ユキヤ	南国病院	ロボットリハビリテーションを経験して～ALS患者に対して～
S8-2	谷川 匠	タニカワ タクミ	田野病院	小脳梗塞を呈した症例～右偏倚した立位姿勢へのアプローチ～
S8-3	上田 優輝	ウエタ ユウキ	近森リハビリテーション病院	左半側空間無視と重度感覚障害を呈した左片麻痺の一症例
S8-4	山中 遼平	ヤマナカ リョウヘイ	芸西病院	自閉症スペクトラム児に対し、認知構造の変容を試みた症例～MLEIに着目して～
S8-5	西村 和輝	ニシムラ カズキ	もみのき病院	くも膜下出血後に正常圧水頭症を呈した症例を経験して
S8-6	東 恵里	アズマ エリ	近森病院	認知機能の低下とラクナ梗塞再発により意識障害を呈した症例を経験して
S8-7	瀧本 京香	タキモト キョウカ	田野病院	脳梗塞右片麻痺により左膝関節疼痛が悪化した症例
S8-8	山地 康介	ヤマジ コウスケ	南国病院	強いすくみ足が出現するパーキンソン病の症例を経験して
S8-9	濱田 昂平	ハマダ コウヘイ	近森リハビリテーション病院	選択的注意向けと荷重訓練により麻痺側支持性向上を図った右片麻痺を担当して

**セクション 9 (運動器)****座長 土佐リハビリテーションカレッジ 奥田 教宏**

S9-1	澤田 麻菜	サワダ マナ	清和病院	右大腿骨頸部骨折により歩行困難となった症例を経験して
S9-2	松本 多恵	マツモト タエ	いずみの病院	大腿骨頸部骨折を生じたパーキンソン病患者の症例～認知機能低下を考慮した治療の工夫～
S9-3	岩村 玲那	イワムラレイナ	須崎くろしお病院	右大腿骨転子部骨折を呈した症例～起居・移乗動作を目的とした応用行動分析的介入～
S9-4	松村 神之助	マツムラ シンノスケ	だいいちリハビリテーション病院	左大腿骨転子部骨折を呈し観血的骨接合術を施行された一症例を経験して
S9-5	向井 絵理	ムカイ エリ	だいいちリハビリテーション病院	大腿骨転子下骨折を呈しロングァネイルを施行した一症例
S9-6	山本 祐貴	ヤマモト ユウキ	高知赤十字病院	両大腿骨粉碎骨折の症例に対して急性期でできること
S9-7	石山 大輝	イシヤマ ダイキ	だいいちリハビリテーション病院	大腿骨近位部骨折を呈した症例を経験して
S9-8	有田 愛	アリタ アイ	筒井病院	大腿骨転子下骨折を呈した症例を経験して～転倒予防に向けた取り組み～

**セクション 10 (運動器)****座長 田中整形外科病院 牧 奈央**

S10-1	西岡 直人	ニシオカ ナオト	芸西病院	訓練拒否の続いた一症例～自宅復帰を目指して～
S10-2	嶋村 徳之	シマムラ ノリユキ	細木病院	非術側荷重が困難だった症例～荷重量に着目して～
S10-3	古味 まどか	コミ マドカ	細木病院	両下肢不全麻痺を呈した症例を担当して～寝たきりから歩行獲得までの道のり～
S10-4	北澤 雅俊	キタザワ マサトシ	細木病院	左脛骨近位端骨折患者に対する跛行の改善を目的にした理学療法プログラムの立案と考察
S10-5	猪島 由紀乃	イジマ ユキノ	高知県立あき総合病院	右肩腱板断裂術後の一症例～自覚的疼痛強度に着目して～
S10-6	谷口 成美	タニグチ ナルミ	近森オルソリハビリテーション病院	足底感覚障害により荷重時痛が生じた症例
S10-7	田島 康行	タシマ ヤスユキ	みぞぶち整形外科クリニック	スイング動作による過負荷により腰椎分離症を呈した症例
S10-8	濱田 真也	ハマダ シンヤ	くぼかわ病院	圧迫骨折における圧潰抑止への取り組み

**セクション 11 (運動器)****座長 国立病院機構高知病院 加嶋 憲作**

S11-1	尾崎 由吏伽	オサキ ユリカ	細木病院	転倒による左上腕骨近位端骨折を呈した症例～歩行再獲得と在宅復帰を目指して～
S11-2	北川 大貴	キタガワ ダイキ	細木病院	転倒を繰り返し膝蓋骨骨折を呈した症例～超高齢者のバランス能力に着目して～
S11-3	福島 圭吾	フクシマ ケイゴ	南国中央病院	再転倒防止に向けた取り組み～再転倒により恥骨骨折を呈した症例～
S11-4	中川 大種	ナカガワ ヒロカズ	近森病院	距骨全摘出術を施行した症例の歩行獲得に向けた関わり
S11-5	瀧川 桃香	タキガワ モモカ	高知大学医学部附属病院	認知行動療法と筋電図バイオフィードバック療法により離床が可能となった1症例
S11-6	天野 真衣	アマノマイ	須崎くろしお病院	精神疾患を合併した脊髄損傷患者に対する理学療法を経験して
S11-7	吉本 愛里	ヨシモト アイリ	南国中央病院	第1腰椎圧迫骨折患者の杖歩行獲得に向けて
S11-8	森 弘子	モリ ヒロコ	高知整形・脳外科病院	足把持力がバランスに及ぼす影響～Functional balance scaleと足把持力との相関性について～

**セクション12 (生活環境支援)****座長 介護老人保健施設ヴィラフローラ 有澤 静香**

S12-1	堀田 奈甫	ホッタ ナホ	近森病院	緊急小腸切除術を施行された患者に対する短期間での自宅復帰に向けた取り組み
S12-2	杉村 亮	スギムラ リョウ	永井病院	医療従事者間の連携がとれ活動性の向上を認めた症例
S12-3	井上 莉奈	イノウエ リナ	野市中央病院	脳梗塞を呈した症例～家族への関わり～
S12-4	宮林 典寛	ミヤバヤシ ノリヒロ	渭南病院	脳幹梗塞を発症した症例の在宅支援を経験して
S12-5	津野 陽子	ツノ ヨウコ	高陵病院	自宅復帰に向けての取り組み
S12-6	安田 凌	ヤスダ リョウ	筒井病院	脳血管疾患の在宅復帰～難事例を経験して～
S12-7	澤田 康平	サワダ コウヘイ	南国中央病院	座位バランス改善がトイレ動作時の介助量を軽減させた症例
S12-8	山本 恭子	ヤマモト キョウコ	清和病院	地域包括ケア病棟を担当して